

聖霊に満たされなさい

2009.6.2(火)

ベック兄メッセージ(メモ)

引用聖句

ルカの福音書 3章21節、22節

さて、民衆がみなバプテスマを受けていたころ、イエスもバプテスマをお受けになり、そして祈っておられると、天が開け、聖霊が、鳩のような形をして、自分の上にと下られるのをご覧になった。また、天から声がした。「あなたは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。」

エペソ人への手紙 5章18節後半

御霊に満たされなさい。

創世記3章1節に、「神は、ほんとうに言われたのですか」と書いてあります。人間の悩みのもととは何でしょうか。答えは、ただ今の創世記3章1節のみことばに含まれているのではないかと思います。悪魔は主なる神のみことばの後ろに疑問符をつけました。それだけではなく、主なる神のみことばの代わりに自分のことばをつけたのです。人間が主のみことばよりも悪魔のことばを信じたので、墮落して罪人となり、生ける神との交わりが全く絶たれてしまいました。主を恐れず、主のみことばの前におののけない者は、知らないうちに悪魔のとりこになってしまいます。イエス様はマルコ伝10章3節で次のようにおっしゃっています。

マルコの福音書 10章3節後半

「モーセはあなたがたに、何と命じていますか。」

二千年前、イエス様は当時のユダヤ人に、次のように問いかけられています。「モーセはあなたがたに、何と命じているのか」と。イエス様は何とおっしゃりたかったかと言いますと、「聖書こそ、神のみことばそのものです。いつまでも変わらない神のみことばです」と。しかしこんにちに至るまで、大部分の人間は聖書を主なる神のみことばとして受け入れようとせず、またみことばを聞こうともしません。

モーセの伝えたことばは、「主なる神のみことば」でした。けれど神のみことばは、こんにちのドイツでも大切にされていません。政治家たちは人間の前に良い子になろうと思ひ、平気で主のみことばを無視しますし、「新しい法律」を設けるのです。もちろんドイツだけではなく、「いわゆるキリスト教の国々」でさえ、どこの国へ行ってもそうなのです。「差

別してはいけない」「仲良くしましょう」、そのような考えかたなのです。しかしよく考えると、この考えかたは悪魔的です。人間を不幸にすることです。

ドイツの1950年の法律と2000年の法律では、全く違うものになりました。1950年の法律では、主なる神に対して、或いは教会に対して公に侮辱する者は、三年間刑務所に入れられました。姦淫をした者は半年間刑務所に入れられたこともあります。そのような本を読む人々も罰せられました。みだらな雑誌を出す人々も刑務所に入れられたのです。子どもを墮胎することは絶対許されていませんでした。もし女性がそのことをしたなら、彼女は刑務所に入れられ、それを行なった医者も刑務所に入れられたのです。また日曜日を大切にしなかった人々は、罰金を払ったり、二週間刑務所に入れられたのです。この1950年の法律はこんにち全く無視されています。(何をやっても良いではないかと。)

ですから、今度出版した「モーセの十戒」についての本は、兄弟姉妹の皆さんは既に『主は生きておられる』でお読みになったと思いますが、続いてお読みになれば本当に良いと思います。今度の本は無料です。費用は集会からの支出ではありません。献金箱に何も入れなくて良いのです。何冊でも自由に持って帰ってください。もちろん分かるでしょう。あの本は、本当は未信者のために書いたものではありません。信者のためです。今までいろいろ本を出しました。どうしてかなぜか分かりませんが、一番用いられているのはリンデの『実を結ぶ命』だったのです。このリンデの本は、娘のために出したことではないのです。全くそのような気持ちはありませんでした。カリスマ運動がいかにかひどい影響を及ぼすのか、一般の人に注意するために出版しました。目的はそのことだったのです。娘は別にどうでも良いのです。しかし、多くの人々があの本を通して導かれたのです。今度の本も、本当は信者のための本なのです。ですから、みな心を一つにして祈りましょう。未信者が導かれるように、と。

明日ドイツまで行くのは身体だけです。気持ちは残ります。なぜならドイツでもやはり信仰の闘いだからです。もちろん、日本のために祈っている集会を訪ねなければいけないし、すぐガイスワインまで行きます。それから、メットマンまで行きますし...、もちろんビルケンフェルトまで行きます。ぜひ祈ってください。

昨日までアイドリゲンでは大きな大会があったのです。日本ではあまり大切にされていない五旬節でした。ドイツでは学校も会社も全部休みなのです。学校は二週間ぐらい休みです。一昨日アイドリゲンに集まった若い人々は八千人だったそうです。非常に祝福された集会だったそうです。五旬節のとき最も考えるべきことは、司会の兄弟の読みましたエペソ書5章の18節ではないでしょうか。

エペソ人への手紙 5章18節後半

聖霊に満たされなさい。

非常に短いことばです。あらゆる信じる者にとって最も大切なことは、「聖霊に満たされる」ことです。「聖霊に満たされている人の苦しみ」は、主を仰ぎ見て平安をいただいています。「聖霊に満たされている人の問題」は、解決されます。「聖霊に満たされている人の欠乏」は、取り除かれています。

今日は、イエス様の経験について、考えたいと思います。その場合に、「主に用いられるために私たちは何を経験しなくてはならないのか」を考えてみたいと思います。

もう一度、初めに読んでいただきました箇所を読んでみましょう。

ルカの福音書 3章21節、22節

さて、民衆がみなバプテスマを受けていたころ、イエスもバプテスマをお受けになり、そして祈っておられると、天が開け、聖霊が、鳩のような形をして、自分の上を下られるのをご覧になった。また、天から声がした。「あなたは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。」

「さて、民衆がみな…」、考えられないほど大勢の人でした。

イエス様の受洗は、イエス様の公のご奉仕の出発点でした。その時までイエス様は福音を宣べ伝えられませんでした。30歳になられるまで、大工として働かれていたのです。イエス様の洗礼のとき、聖霊は鳩のように主の上に降られた、とあります。もちろん、イエス様の洗礼は私たちの洗礼とは違うものです。しかしイエス様が経験なさったことは、私たちの経験でもなければなりません。即ち、私たちは聖霊に満たされた者でなければならぬのです。私たちはイエス様について、イエス様は聖霊によってマリヤの胎を通してお生まれになられた、ということを知っています。

マタイの福音書 1章20節

彼がこのことを思い巡らしていたとき、主の使いが夢に現われて言った。「ダビデの子ヨセフ。恐れないうあなたにあなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。」

男と女の間にはできたものではありません。旧約聖書に預言された通りです。

ルカの福音書 1章35節

御使いは答えて言った。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる者は、聖なる者、神の御子と呼ばれます。」

と、御使いはマリヤに説明したのです。その証拠として聖書は、イエス様が完全にきよい、罪のない人生を送られた、と記しています。

ヘブル人への手紙 7章26節

また、このようにきよく、悪も汚れもなく、罪人から離れ、また、天よりも高くされた大祭司こそ、私たちにとってまさに必要な方です。

とあります。

イエス様はご自分の自発的な意志で、どうしようもない人間、罪人である人間を救うというご目的をもって、この世に来てくださいました。しかし、イエス様が公のご奉仕を始めようとなさるその前に、聖霊が鳩のようにイエス様の上に降った、と書いてあります。後になってイエス様は、この経験について次のようにお語りになりました。ルカ伝 4 章を見ると次のように書かれています。

ルカの福音書 4 章 1 8 節

「わたしの上に主の御霊がおられる。主が、貧しい人々に福音を伝えるようにと、わたしに油を注がれたのだから、主はわたしを遣わされた。捕われ人には赦免を、盲人には目の開かれることを告げるために。しいたげられている人々を自由にし、主の恵みの年を告げ知らせるために。」

と、イエス様は証ししてくださいました。ペテロも後になってそのことについて次のように報告したのです。

使徒の働き 1 0 章 3 8 節前半

「それは、ナザレのイエスのことです。神はこの方に聖霊と力を注がれました。」

とあります。

神の御子であられるイエス様にとって、上からの力を着せられることは、イエス様の三年半に及ぶご奉仕を特徴づけた経験でした。聖霊はイエス様の上にとどまり、イエス様は絶えず聖霊に満たされておいでになりました。イエス様の弟子たちは、バプテスマのヨハネが既に語っていたのと似たような経験をしたのでした。

ルカの福音書 3 章 1 6 節

ヨハネはみなに答えて言った。「私は水であなたがたにバプテスマを授けています。しかし、私よりもさらに力のある方がおいでになります。私などは、その方のくつのひもを解く値うちもありません。その方は、あなたがたに聖霊と火とのバプテスマをお授けになります。」

イエス様は、弟子たちもそのような経験をすることになる、と予告なさいました。昇天される前にイエス様はおっしゃったのです。

ルカの福音書 2 4 章 4 9 節

「さあ、わたしは、わたしの父の約束してくださったものをあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。」

つまり、「先に出てはいけません。出ても意味のないことです。的外れです。何をしても意味のないことです」と。弟子たちはとどまっていた。そして経験したことは使徒行伝 1 章 8 節です。

使徒の働き 1 章 8 節

「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」

ここで初めて、「とどまりなさい。後で地の果てまで行きなさい」ということになりました。イエス様が約束なさったことはすぐに成就されました。使徒行伝 2 章 1 節です。

使徒の働き 2 章 1 節

五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた。

4 節前半

すると、みなが聖霊に満たされ...

とあります。

私たちにも同じ聖霊は働かれて、私たちが満たしたいと願っておられます。それによって、私たちの人生が変えられて、イエス様が栄光をお受けになり、多くの人が真理を知るにいたるように、と願っておられるのです。

疑いもなく、聖霊に満たされることほど、信じる者にとって大切なことはありません。イエス様は、きよく罪なく汚れもなく、罪人から全く離れておいでの方でした。それにもかかわらず、どうしてイエス様は聖霊に満たされることを必要となさったのか、私たちには分かりません。このことは一つの奥義です。弟子たちの場合は違っています。その点については、私たちもはっきりしていて疑問の余地はありません。

聖霊に満たされることなしには、イエス様の福音は宣べ伝えられなかったに違いありません。けれど、弟子たちが聖霊に満たされた時、彼らの人生はいっぺんに変わりました。

私たちも「主に喜ばれる人生を送りたい」と思うなら、また、主が私たちが主のご奉仕に用いたいと思うようになられるなら、私たちも聖霊に満たされなければなりません。

そこでまず、一つの質問について考えたいと思います。即ち、聖霊はなぜ鳩のような形をしてイエス様の上に降ったのでしょうか。聖書は鳩について四つの特徴を挙げています。

一番目、純粋さ。

二番目、美しさ。

三番目、謙虚さ。

四番目、喜んでする覚悟。

* 第一番目。鳩の純粹さ。

雅歌 6章9節

汚れのないもの、私の鳩はただひとり。

とあります。これは、花嫁についての花婿の判断でした。鳩は純粹なものであり、汚れのないものです。

* 第二番目。鳩の美しさ。

詩篇 68篇13節後半

銀でおおわれた、鳩の翼。その羽はきらめく黄金でおおわれている。

とあります。即ち、鳩は非常に美しいものであると聖書は語っているのです。

* 第三番目。鳩の謙虚さ。

マタイの福音書 10章16節

「鳩のようにすなおでありなさい。」

とあります。

* 第四番目。鳩の喜んでする覚悟。

詩篇 55篇6節

「ああ、私に鳩のように翼があったなら。」

とあります。鳩の特徴は、何かあればすぐに飛んでいく、ということです。

聖霊は、鳩のようにイエス様の上に降りました。なぜなら、イエス様は既に鳩の特徴、即ち完全な純粹さ、美しさ、謙虚さ、喜んでする覚悟を身につけておられたからです。父なる神は、このことを次のようなことばで証明してくださいました。「あなたはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ」と。

私たちの場合は、事情が異なります。私たちは聖霊に満たされることを必要とします。なぜなら、私たちはこれらの鳩の特徴を少しも持っていないからです。しかし聖霊に満たされることによって、これらの特徴は御霊の実として私たちの生活の中に啓示されるべきです。

イエス様の人生は、全くきよく美しい人生でした。イエス様は謙遜で、いつも喜ぶ覚悟を持っておられ、父なる神のみこころを喜んで行なう覚悟を持っておられたのです。私たちは、本質的に正反対なのではないでしょうか。純粹さというものを考えることができず、私たちはみな、汚れています。美しさというのも考えられません。主の前に私たちは忌む

べきものです。謙遜さということも考えられません。私たちはみな、誇り高く傲慢です。喜んでする覚悟ということも考えられません。私たちはみな、自己追求的、自己中心的であり、自分の意思を通そうとします。私たちはみな、生まれた時からそのようなものであり、死ぬまでそのようなものにとどまるのです。もし、聖霊に満たされないなら…。

聖霊は鳩のようにイエス様の上に降りました。なぜなら、イエス様こそ鳩の特徴、即ち、全き純粋さ、美しさ、謙虚さ、そして喜ぶ覚悟を持っておいでになるただ一人のお方だからです。実際、聖霊に満たされた人の人生には、イエス様の純粋さ、美しさ、謙虚さ、喜ぶ覚悟のうちの何かが明らかに現われるでしょう。私たちのように蛇のような性格の持ち主は、聖霊に満たされることによって、鳩のような性格の持ち主になるべきです。

聖霊に満たされるとは、いったいどのようなことでしょうか。今話しましたように、御霊の満たしは次のことを意味しています。

- 一番目、イエス様の純粋さを知ること。
- 二番目、イエス様の美しさを反映すること。
- 三番目、イエス様の謙虚さにあずかること。
- 四番目、イエス様の喜ぶ覚悟を経験すること。

* 第一番目。イエス様の純粋さを知ること。

聖霊に満たされている人は、イエス様の純粋さを知っています。聖霊とは、即ちきよい御霊です。イエス様は、私たちの人生をきよめてくださるのです。聖霊に満たされる前、弟子たちは肉肉的であり、彼らの人生は絶えず上がったり下がったりしていました。イエス様の弟子たちは誇りに満ち、ねたみ深く、党派心に満ち、復讐深く、批判精神に満ちていました。

けれど彼らは聖霊に満たされたとき、もはや、誇り、ねたみ、党派心、復讐心、批判など余地がないほど満たされました。彼らは内面的にきよめられ、純化されることを経験したのです。そして、まさにこのことを私たちもまた必要としているのではないのでしょうか。即ち、あらゆる汚れからのきよめです。

主なる神の霊が私たちを満たすことがおできになるなら、私たちはイエス様のきよさを知ると同時に、私たちの汚れ、不純さ、汚さを知ります。けれど感謝すべきことは、私たちはそのようなありのままの状態、つまり汚れた者として主のみもとに行くことが許されており、主の前に罪を告白することができるのです。そうするなら、主はあらゆる罪とすべての汚れからきよめてくださいます。

力を持つために聖霊に満たされたいと思っている人がいますが、私たちがすべてのものにまさって必要としているのは、力ではなくて、内面的にきよくされることです。そのときに初めて、主は私たちを主の器としてお用いになることができるのです。

* 第二番目。イエス様の美しさを知ること。

聖霊に満たされている人は、イエス様の美しさを反映するようになります。化粧品のためにたくさんのお金を使う人もいます。けれど、本当の美しさは、聖霊が私たちを満たすことができになることによって得られるのではないのでしょうか。聖霊によって満たされている人は、美しく魅力的です。主が私たちを救ってくださったご目的の一つは、美しくなる、ことではないのでしょうか。

使徒行伝の中に、一つの実例が出てきます。ステパノです。このステパノとはご存じのように、初代教会の最初の殉教者でした。彼は大胆にイエス様を、救い主としてではなく、主として、すべてを支配したもうお方として紹介しました。ですから、主の御手のうちに用いられる器になったのです。そのため彼は攻撃され、議会に引き渡されて弁明せざるを得なくなったのです。この出来事について次のように記されています。

使徒の働き 6章15節

議会で席に着いていた人々はみな、ステパノに目を注いだ。すると彼の顔は御使いの顔のように見えた。

御使いの顔は、疑いもなく美しいものです。ステパノの顔は美しかったのです。なぜでしょうか。それは、生まれつきの自然の美しさではなかったのです。ステパノが聖霊に満たされていたからです。

使徒の働き 7章55節

しかし、聖霊に満たされていたステパノは、天を見つめ、神の栄光と、神の右に立っておられるイエスとを見て、

ステパノは、「神の栄光、また主イエス様を見た」と記されています。ステパノのように主を見る者は神の栄光をも見るようになります。彼はイエス様を見るようになり、イエス様の美しさが彼の顔に反映するようになったに違いありません。

ペテロとヨハネは、同じように聖霊に満たされた人々でした。彼らについて同じく使徒行伝4章に次のように報告されています。

使徒の働き 4章の13節

彼らはペテロとヨハネとの大胆さを見、またふたりが無学な、普通の人であることを知って驚いたが、ふたりがイエスとともにいたのだ、ということがわかって来た。

御霊に満たされることによって、弟子たちは、イエスに似た者となりました。彼らは、イエス様の美しさを反映したのです。美しくなるための最良の手段と方法は、聖霊によってきよめられ、満たしていただくことではないのでしょうか。そうすると、他の人々を惹きつけるようになります。ただしあなたにではなく、「イエス様に」惹きつけるようになります。周りの人がこの主を知りたいと思うようになります。なぜなら、イエス様は人生を

変えることができるお方であるからです。

* 第三番目、イエス様の謙虚さにあずかること。

聖霊に満たされている人は、イエス様の謙虚さにあずかるようになります。聖書全体の語っているところは、何度も言いましたように、「神は高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお与えになる」ということです。最も重い罪は謙遜の足りないことです。自分の無力さで、「自分の思っていることは、もしかすると間違っているかもしれない」と思えない人は気の毒な人ではないでしょうか。

イエス様は次のようにおっしゃいました。(イエス様だけしかおっしゃることのできないことばです。)

マタイの福音書 11章29節

「わたしは心優しく、へりくだっている。」

と、イエス様はおっしゃることができたのです。

前に、鳩について話したのですが、鳩の一つの特徴は胆のうを持っていないということです。胆汁は苦いものです。苦さと争いと誇りは、私たち人間の性質の特徴です。鳩は、柔和、謙虚さ、温和によって特徴づけられています。なんと多くの人間が、「高ぶりの胆汁」によって破壊されたことでしょうか。鳩の謙虚さはどのように現われるのでしょうか。あなたは間違ったことをしたと気がついたら、そのことを正直に告白してください。つまり「私が最近言ったことを許してください。言わなかったほうが良かった」と。或いは、「私は、あなたに対して批判的な態度をとって、深く考えもせずあなたのことについて話してしまいました。ごめんなさい」と。これこそ謙虚さです。けれど、ある人があなたから謝罪を要求すると言うなら、これは誇り、辛辣、けんか好きのしるしです。私たちのイエス様は次のように言っておられます。

マタイの福音書 11章29節

「わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。」

「そうすれば...」。(そうしなければ駄目。)

私たちの主イエス様は心の優しいお方でしたが、決して弱い方ではありませんでした。それまでのいわゆる弟子たちが本当の弟子になってもらいたい、ということこそイエス様の関心事でした。イエス様は御足跡に踏み従って来る人々を欲しておられました。これは、いかにして可能なこととなったのでしょうか。それは、彼らが聖霊に満たされた時に、「傲慢」、「自己追求心」、「党派心」から解放されたのです。聖霊に満たされた人々とともに生活することは本当に楽しみです。喜びです。人の心はどのようにして変えられるのでしょうか。

それは、聖霊に満たされることによるのみです。

* 第四番目。イエス様のお持ちになっている「喜ぶ覚悟」を経験すること。

聖霊に満たされている人は、イエス様の何ごとも「喜んでする覚悟」を経験します。別のことばで表現するなら、あらゆる主の願いを喜んで満たすことは聖霊に満たされている人の特徴です。「主にだけ仕えることを喜んでする覚悟」、「主の合図に応じて即座に行なう従順」、「主がなさりたいと思っておられることを行ないたい、という切なる願い」、これが私たちの生活の特徴でなければなりません。

詩篇の作者は次のように告白したのです。本当は主の告白そのものです。

詩篇 40篇7節

「今、私はここに来ております。巻き物の書に私のことが書いてあります。わが神。私はみこころを行なうことを喜びとします。あなたのおしえはわたしの心のうちにあります。」

これは、私たちの「告白」でもあるのでしょうか。これは私たちの「心の叫び」なのでしょう。私たちは心から望んで、主のみこころを行ないたいのでしょうか。このことはいったいどうしたら可能になるのでしょうか。「聖霊が私たちを満たすとき」、私たちは「何があってもみこころだけがなされるように」という切なる願いによって満たされるようになります。私たちは主に次のように叫ぶようになります。「主よ。たとえどんなことがあるうとも、『みこころ』が私たちの人生において成就されますように」と。

一つの実例は使徒行伝8章に出てきます。ピリポという男についてです。主は彼に命令なさいました。

使徒の働き 8章26節後半

「立って南へ行き、エルサレムからガザに下る道に出なさい。」

27節

そこで、彼は立って出かけた。

とあります。これはまことに素早い従順です。

29節

御霊がピリポに「近寄って、あの馬車といっしょに行きなさい。」と言われた。

そこで、

30節

ピリポは走って行くと、

これは、一人の人間に明らかにされたものであって、「父なる神のみこころに応じられるイエス様の覚悟」そのものです。その前の使徒行伝6章3節から5節によると、「ピリポは聖霊に満たされていた」と記されています。これがピリポの用いられる秘訣です。ですから、ピリポはすぐに立ち上がって出かける備えができていたのです。ピリポは、人間的に見るなら愚かと思われることを、「喜んで従順に行なった」のです。即ち、どこに行くのかわからずに行動したのです。ピリポは、「主がなさりたいことだけを行ないたい」という切なる願いを持っていたのです。

終わりに、次のような問いが登場してきます。私たちは、聖霊に満たされるために何をしなくてはならないのでしょうか。

パウロは次のように証しすることができたのです。

コリント人への手紙・第一 2章4節

私のことばと私の宣教とは、...御霊と御力の現われでした。

御霊に満たされる生活の秘訣とは、いったいどのようなことなのでしょう。

まず、イエス様は父なる神のみこころに完全に従われました。「わたしの思いではなく、あなたのみこころがなりますように」と。イエス様は、父の御手にある従順な器でした。その態度は、常に次のようなものでした。「父よ、わたしはここにいます。どうかあなたのご自由になさってください。わたしは、この地上でただあなたのみこころだけが行なわれますように何でもいたします」。イエス様がこの態度をおとりになられたので、聖霊は高い所からの力としてイエス様の内に宿られるようになりました。イエス様は聖霊に満たされましたが、意見を語られなかったのです。

それから、前に読みましたルカ伝の3章21節によると、イエス様が祈っておられると聖霊がイエス様の上に降った、と記されています。「祈り」こそ、聖霊に満たされるための前提です。

- ・五旬節の時、120人の兄弟姉妹が祈っている間に、聖霊に満たされました。
- ・その少し後で、祈りの答えとして弟子たちがまた新しく聖霊に満たされた、と使徒行伝4章31節に書かれています。
- ・使徒行伝の中で一番用いられている男はサウロ（後のパウロ）でした。そして使徒行伝9章の11節、17節、18節においては、彼について次のようなことが書き記されています。「見よ。彼は祈っています」。すぐその後で、彼もまた聖霊に満たされました。

私たちが聖霊に満たされたいと願うなら、

- ・私たちの人生はすべて、主に明け渡されなければなりません。
- ・「主のみこころだけを行なおう」ということが、私たちの願いとならなければなりません。

・私たちの「祈り」は、「主よ、私はただあなたのご栄光だけを望みます」というものでなければなりません。

主は次のように答えてくださるでしょう。

即ち、「イエス様のきよさ」、「イエス様の美しさ」、「イエス様の謙虚さ」、「イエス様の喜んでする覚悟」です、と。そのことは、私たちの実際生活の中にも見られるものとなるのです。イエス様がヨルダン川の中に立たれたとき、イエス様の切なる願い、イエス様の祈り、イエス様の心からの叫びは、次のようなものでした。「父よ。わたしはここにいます。あなたのみこころだけが、わたしを通して行なわれますように」。

聖霊は、与えられた使命をイエス様が果されるために「必要となさった高い所からの力」として、イエス様の上に降りました。今日イエス様は、私たちに次のように言っておられます。「父がわたしを遣わされたように、わたしはあなたがたを遣わします。父はわたしを遣わされましたが、父はわたしを一人にさせず、聖霊がわたしの上に降り、わたしの中にとどまりました。わたしを通して、父は聖霊の力によって、贖いのみわざを成就してくださいました。そして今わたしは、あなたがたを遣わします。あなたがたを通して、誰でも罪の赦し、神との平和、永遠のいのちをただでいただくことができる、ということが宣べ伝えられるべきです」。「しかし、わたしはあなたがたを一人では行かせません。わたしにあなたがたの人生の全支配権を与えなさい。そうすれば、わたしはあなたがたを用いることができるようになります。わたしの霊は、あなたがたを満たし、器として用いるようになります」と。

「聖霊に満たされること」、また「イエス様の御手にある器となること」にまさる大いなるものは何一つありません。

了